

京都府議会

文化・教育常任委員会

活動報告書



令和5年4月29日

委員長	諸岡美津
副委員長	宮下友紀子
副委員長	渡辺邦子
委員	荒巻隆三
委員	二之湯真士
委員	藤山裕紀子
委員	森口亨
委員	山内佳子
委員	森下由美
委員	西山頌秀
委員	平井斉己
委員	山本篤志

目次 京都府議会 文化・教育常任委員会 活動報告書

1	委員会の審議等の状況（概要）	1
2	委員会活動状況	2
3	重要課題調査のための委員会	7
4	付託議案及び審査依頼議案審査結果	9
5	付託請願審査結果	10
6	管内外調査	11
7	委員会活動のまとめ	21

1 委員会の審議等の状況（概要）

本委員会は、文化スポーツ部（※）及び教育委員会の所管並びにそれに関連する事項を所管している。

各部局の主な所管事項は、下表のとおりである。

部局名	主な所管事項
文化スポーツ部	文化、芸術、生涯学習、スポーツ、私学、府大学、大学政策
教育委員会	学校教育、特別支援教育、保健体育、社会教育、文化財保護

※府の組織改正（R5.4.1～）により部局が廃止・新設されているが、所管事項に変更なし。

京都府議会の各常任委員会では、年4回の定例会において、条例案などの審査を行うほか、議会の閉会中に委員会を開催して、府政の重要課題について、テーマを設けて集中的に審議するとともに、京都府内や他府県に赴いて調査を実施している。

今期の文化・教育常任委員会の閉会中の常任委員会においては、所管事項に関するテーマについての議論を深めるため、参考人制度を活用して、専門的知見を有する方の意見を聴取し、テーマに関する議論を掘り下げた。

また、管内調査では、京都府の施策が実施されている現場等に赴き、府の事業担当者の説明を聴取するとともに、現地視察を行った。

管外調査では、先進事例や京都府と共通する課題に対して、他の自治体や関係事業者がどのような取組を実施しているのか、もしくはどのように対応しようとしているのかを調査した。

2 委員会活動状況

時期	活動	議題・テーマ
5 月		
R4. 5.18	委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■委員長の選任 ■副委員長の選任 ■副委員長の順位
6 月		
R4. 6. 8	正副委員長会	<ul style="list-style-type: none"> ■出席要求理事者 ■確認事項 ■本日の委員会運営
R4. 6. 8	委員会 (初回)	<ul style="list-style-type: none"> ■出席要求理事者 ■確認事項 ■所管部局の事務事業概要等 ■今後の委員会運営
R4. 6.10	正副委員長会	<ul style="list-style-type: none"> ■委員会及び分科会運営
R4. 6.10	委員会及び 予算特別委員会 分科会 (6定先行審議①)	<ul style="list-style-type: none"> ■審査依頼議案（質疑終結まで） ■所管事項の質問（新型コロナウイルス感染症に関する こと）
R4. 6.20	正副委員長会	<ul style="list-style-type: none"> ■分科会運営
R4. 6.20	予算特別委員会 分科会 (6定先行審議②)	<ul style="list-style-type: none"> ■審査依頼議案（質疑終結まで） ■審査依頼議案（適否確認）
R4. 6.21	正副委員長会	<ul style="list-style-type: none"> ■委員会運営 ■今後の委員会運営
R4. 6.24	管内調査	○コレクション展「旅する印象—画家が見つめた、ひと・町・自然—」内覧会 (行催事等委員会調査)
7 月		
R4. 7.14	委員会 (6定1日目)	<ul style="list-style-type: none"> ■報告事項の聴取 (文化スポーツ部) ・京都府公立大学法人 令和4年度・年度計画について (教育委員会) ・京都府立丹後郷土資料館のリニューアルに向けた取 組状況について ■付託議案（質疑終結まで）

R4. 7.15	委員会 (6定2日目)	<ul style="list-style-type: none"> ■付託議案(討論・採決) ■所管事項の質問(教育委員会)
R4. 7.19	委員会 (6定3日目)	<ul style="list-style-type: none"> ■所管事項の質問(文化スポーツ部、文化施設政策監) ■閉会中の継続審査及び調査 ■今後の委員会運営
R4. 7.26	正副委員長会	<ul style="list-style-type: none"> ■今後の委員会運営
8 月		
R4. 8.19	正副委員長会	<ul style="list-style-type: none"> ■本日の委員会運営
R4. 8.19	委員会 (閉会中)	<ul style="list-style-type: none"> ■所管事項の調査 ・「不登校児童生徒への支援について」 参考人：立命館大学大学院人間科学研究科 特任教授 野田 正人 氏
9 月		
R4. 9. 2	管内調査	○第2回「古典の日文化基金賞」授賞式 (行催事等委員会調査)
R4. 9.21	正副委員長会	<ul style="list-style-type: none"> ■定例会中の委員会及び分科会運営 ■オンライン委員会に関する申合せ ■今後の委員会運営
R4. 9.28	委員会及び 予算特別委員会 分科会 (9定1日目)	<ul style="list-style-type: none"> ■オンライン委員会に関する申合せ ■報告事項の聴取 (文化スポーツ部) <ul style="list-style-type: none"> ・「関西広域連合第5期広域計画(中間案)」について ・府民利用施設のあり方検証結果報告について ・文化スポーツ部所管施設における指定管理者の選定について (教育委員会) <ul style="list-style-type: none"> ・「魅力ある府立高校づくり懇話会」の設置について ■審査依頼議案(質疑終結まで)
R4. 9.29	委員会及び 予算特別委員会 分科会 (9定2日目)	<ul style="list-style-type: none"> ■審査依頼議案(適否確認) ■所管事項の質問(教育委員会)
R4. 9.30	委員会 (9定3日目)	<ul style="list-style-type: none"> ■所管事項の質問(文化スポーツ部、文化施設政策監) ■閉会中の継続審査及び調査 ■今後の委員会運営

10 月		
R4.10.30	管内調査	○第45回京都府民総合体育大会オープニングフェスティバル（行催事等委員会調査）
R4.10.31	管内調査	○古典の日フォーラム2022・I & 琉球王朝の華 組踊（行催事等委員会調査）
11 月		
R4.11.5	管内調査	○京都府立医科大学創立150周年記念式典（行催事等委員会調査）
R4.11.15 ～ R4.11.16	管外調査	<p>■所管事項の調査</p> <p>○半田市議会 ・部活動の地域移行に関する取組について</p> <p>○NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブ ・地域総合型スポーツクラブの運営及び部活動の地域移行に係る現状について ・施設視察</p> <p>○公益財団法人静岡県舞台芸術センター 〔於：静岡芸術劇場〕 ・静岡県舞台芸術センターにおける舞台芸術の振興の取組について ・施設視察</p> <p>○静岡市議会 ・プロスポーツを生かしたまちづくりについて</p> <p>○エコパスタジアム ・エコパスタジアムにおける官民連携のスポーツを活用したまちづくり・地域活性化の取組について ・施設視察</p>
R4.11.17	管内調査	○Art Collaboration Kyoto 内覧会（行催事等委員会調査）
R4.11.17	管内調査	○Art Collaboration Kyoto オープニングセレモニー（行催事等委員会調査）
R4.11.23	管内調査	○伝統文化の夢舞台（行催事等委員会調査）
R4.11.28	正副委員長会	■本日の委員会運営
R4.11.28	委員会 (閉会中)	<p>■所管事項の調査</p> <p>・「生活文化に係る現状の課題及びその保存、振興について」 参考人：茶人 裏千家教授 ランディー・チャンネル宗榮 氏</p>

R4.11.30	管内調査	○京都府立井手やまぶき支援学校竣工式 (行催事等委員会調査)
12 月		
R4.12.10	管内調査	○京のスポーツ・スタジアム夢づくり事業 2022「京都キッズスポーツフェスタ」(行催事等委員会調査)
R4.12.14	正副委員長会	■定例会中の委員会及び分科会運営 ■今後の委員会運営
R4.12.16	委員会及び 予算特別委員会 分科会 (12定1日目)	■報告事項の聴取 (文化スポーツ部) ・文化スポーツ部所管施設における指定管理者候補団体について ■審査依頼議案(質疑終結まで)
R4.12.18	管内調査	○令和4年度全国高校生伝統文化フェスティバル (行催事等委員会調査)
R4.12.19	委員会及び 予算特別委員会 分科会 (12定2日目)	■審査依頼議案(適否確認) ■付託請願の審査 ■所管事項の質問(教育委員会)
R4.12.20	委員会 (12定3日目)	■所管事項の質問(文化スポーツ部、文化施設政策監) ■閉会中の継続審査及び調査 ■今後の委員会運営
1 月		
R5.1.17	管内調査	■所管事項の調査 ○恭仁宮跡〔於：瓶原公民館〕 ・史跡・歴史遺産の活用整備について ・現地視察 ○京都府立宇治支援学校 ・特別支援学校における教育活動について ・授業見学等
2 月		
R5.2.1	管内調査	○第41回京都府文化賞交流会(行催事等委員会調査)
R5.2.4	管内調査	○恭仁宮フォーラム(行催事等委員会調査)
R5.2.13	正副委員長会	■委員会運営
R5.2.13	委員会 (2定先行審議)	■付託議案(説明聴取、質疑、討論・採決)
R5.2.23	管内調査	○府民とつくるミュージックフェスティバル (行催事等委員会調査)

R5. 2.28	正副委員長会	<ul style="list-style-type: none"> ■委員会及び分科会運営 ■今後の委員会運営
3 月		
R5. 3. 3	委員会及び 予算特別委員会 分科会 (2定1日目)	<ul style="list-style-type: none"> ■報告事項の聴取 (教育委員会) ・令和4年度「公立学校教員勤務実態調査」等の結果について ■付託議案及び審査依頼議案(質疑終結まで)
R5. 3. 4	管内調査	○令和4年度京都府立医科大学卒業式 (行催事等委員会調査)
R5. 3. 6	委員会及び 予算特別委員会 委員会 (2定2日目)	<ul style="list-style-type: none"> ■付託議案(討論・採決) ■審査依頼議案(適否確認) ■所管事項(文化スポーツ部、文化施設政策監)
R5. 3. 7	委員会 (2定3日目)	<ul style="list-style-type: none"> ■所管事項(教育委員会) ■閉会中の継続審査及び調査 ■今後の委員会運営
R5. 3.23	管内調査	○令和4年度京都府立大学卒業式 (行催事等委員会調査)
4 月		
R5. 4. 6	管内調査	○令和5年度京都府立大学入学式 (行催事等委員会調査)
R5. 4. 8	管内調査	○令和5年度京都府立医科大学入学式 (行催事等委員会調査)
R5. 4.14	管内調査	○特別企画展「生誕100年記念 堂本元次」内覧会 (行催事等委員会調査)

3 重要課題調査のための委員会

(1) 不登校児童生徒への支援について

(令和4年8月19日(金)開催)

■開催概要

新型コロナウイルス感染症による人々の意識や生活様式の変化など、従来とは異なる状況が教育現場等を取り巻く中、不登校児童生徒への支援の在り方についても、これまでの施策を礎にしつつも、新たに付加すべき視点がないかを今一度検討し、優先的・重点的に実施すべき方策を整理することが求められている。

文部科学省が設置する「不登校に関する調査研究協力者会議」は、令和4年6月、今後重点的に実施すべき施策の方向性について「誰一人取り残されない学校づくり」「不登校傾向のある児童生徒に関する支援ニーズの早期把握」「不登校児童生徒の多様な教育機会の確保」「不登校児童生徒の社会的自立を目指した中長期的支援」の4つの柱に整理し、全児童生徒を対象としたスクリーニングの実施や不登校特例校設置の推進、フリースクールなど民間団体との連携など取り組むべき具体策を示している。

今回の常任委員会では、理事者及び参考人から、不登校児童生徒への支援の現状、課題や今後の展望等について説明を聴取し、意見交換を行った。

各委員から出された意見・見解等について、今後の府政の推進に当たり十分留意し、府民のため、なお一層の創意工夫をするよう、理事者に対し要望された。

■参考人

立命館大学大学院人間科学研究科 特任教授 野田 正人 氏

■出席理事者

【文化スポーツ部】

文教課長

【教育委員会】

指導部長、指導部理事（高校教育課長事務取扱）、学校教育課長、特別支援教育課長

■主な質問事項

- ・ 諸外国における不登校児童の実態及びその対応について
- ・ スクールソーシャルワーカーに係る国の予算措置の経過について
- ・ 不登校児童生徒に対する個別指導計画について
- ・ 不登校児童の保護者に対する対応について
- ・ 私学における不登校児童の相談体制について
- ・ フリースクールに対する支援について など

(2) 生活文化に係る現状の課題及びその保存、振興について

(令和4年11月28日(月)開催)

■開催概要

文化庁は、京都移転に伴い取り組む機能強化として、衣食住に係る文化をはじめ我が国の生活に根ざした「くらしの文化」である生活文化の振興を掲げている。

生活文化は、我が国の歴史と伝統に基盤を置く重要な分野であり、京都府においても、茶道、華道、食文化、酒造り等様々な生活文化が根付いているが、ライフスタイルの変化による愛好者の減少等の課題が生じている。

今回の常任委員会では、理事者及び参考人から、生活文化に係る現状の課題、その保存、振興について説明を聴取し、意見交換を行った。

各委員から出された意見・見解等について、今後の府政の推進に当たり十分留意し、府民のため、なお一層の創意工夫をするよう、理事者に対し要望された。

■参考人

茶人 裏千家教授 ランディー・チャネル宗榮 氏

■出席理事者

【文化スポーツ部】

副部長（文化政策室長兼務）、副部長（文化総合戦略担当）、文化スポーツ部理事、文化政策室企画参事、文化芸術課長

■主な質問事項

- ・生活文化を趣味とする行動者数の減少の原因について
- ・生活文化の価値の示し方について
- ・茶道が人に提供できる価値について など

4 付託議案及び審査依頼議案審査結果

「◎」は全会一致、「○」は賛成多数、「×」は否決、「会派名=少」は少数意見留保、「*」は修正案提出

(委員会)

	議案番号	件名	審査結果	備考
6月定例会	6	京都府立京都スタジアム条例一部改正の件	◎	
	12	京都府公立大学法人定款変更の件	◎	
2月定例会	35	指定管理者指定の件(文化芸術会館)	◎	
	36	指定管理者指定の件(ゼミナールハウス)	◎	
	37	指定管理者指定の件(京都学・歴史館)	◎	
	41	損害賠償請求事件に係る控訴の件	◎	
	74	財産無償貸付け変更の件	◎	

(分科会)

	議案番号	件名	詳細審査結果
6月定例会	1	令和4年度京都府一般会計補正予算(第3号)中、所管事項	適当
	13	令和4年度京都府一般会計補正予算(第5号)中、所管事項	適当
9月定例会	1	令和4年度京都府一般会計補正予算(第6号)中、所管事項	適当
12月定例会	27	令和4年度京都府一般会計補正予算(第11号)中、所管事項	適当
2月定例会	42	令和4年度京都府一般会計補正予算(第13号)中、所管事項	適当

5 付託請願審査結果

定例会	受理番号	受理年月日	件名	審査結果
12月定例会	1468	令和4年12月8日	2022年度すべての子どもたちが安心して学べる学校づくりと教育条件の整備に関する請願	不採択
	1469	〃	小中学校給食費の無償化に関する請願	不採択

6 管内外調査

① 管外調査

(令和4年11月15日(火)～11月16日(水))

1 半田市議会（愛知県半田市）

【調査事項】

部活動の地域移行に関する取組について

【調査目的】

全国に先駆け小中学校の部活動地域移行に取り組んできた半田市の取組経過や課題について調査を行い、本府における部活動の在り方や教職員の働き方改革の実現に向けた地域部活動の在り方に関する施策の参考とする。



調査事項を聴取

【説明者】

加藤 計志 半田市役所 スポーツ課長

【調査内容】

平成6年、半田市校長会は半田市小中学校部活動検討委員会を発足させ、学校週5日制実施時の学校部活動の在り方について研究し、平成11年3月に学校週5日制の趣旨を踏まえ、部活動は土日祝日には実施しないことを答申した。半田市はこの答申を踏まえ、平成14年3月、原則部活動は土日祝日には行わず、中学生がスポーツをする場合は地域のスポーツクラブで活動することを内容とする半田市スポーツ振興計画を策定し、全国に先駆けて学校部活動の地域移行を実施したが、次のような問題・課題が発生した。

- ・地域指導者の確保が難しく、教員が土日祝日も指導しており実態が変わらない。
- ・会費のみを財源とするスポーツクラブは、教員の謝金の支払いが困難
- ・試合が土日祝日に行われるため、土日祝日に中学校の部活として試合に参加することが多い。
- ・土日祝日の活動にスポーツクラブの会費を払わなければならない、教員、保護者の理解を得るのが困難

半田市では、これらの課題や原因を整理し、課題解決を図るための方向性を検討し、平成24年4月、中学校部活動について「これまで、原則的に土曜日、日曜日の学校部活動は行わないこととしてきたが、祝日も含め、学校長の判断によって部活動として実施することができることとする」運用に改正した。

今後、休日の中学校部活動が段階的に地域移行することが予想されるため、行政・学校・総合型地域スポーツクラブが連携を図り、中学生の体力維持・向上やニーズに応じた活動ができる環境整備に努めるとともに、半田市と包括連携協定を締結している日本福祉大学

と連携し、永続的な活動のための研究を進めていくとのことであった。

【主な質問事項】

- ・ 総合型地域スポーツクラブの会費が支払えない世帯に対する対応について
- ・ 学校地域共同利用施設による学校及び地域のメリット、相乗効果について
- ・ 学校教育共同利用施設建設費の予算の枠組について など

2 NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブ（愛知県半田市）

【調査事項】

総合型地域スポーツクラブの運営及び部活動の地域移行に係る現状について

【調査目的】

学校週5日制を視野に、小中学生のスポーツ活動を総合的に支える事業体として設立されたソシオ成岩スポーツクラブの取組や課題について調査を行い、本府における部活動の在り方や教職員の働き方改革の実現に向けた地域部活動の在り方に関する施策の参考とする。



調査事項を聴取

【説明者】

榊原 孝彦 ソシオ成岩スポーツクラブ マネージングディレクター
池田 智美 ソシオ成岩スポーツクラブ マネージャー（広報担当）

【調査内容】

ソシオ成岩スポーツクラブは、学校と地域が連携し小中学生のスポーツ活動を総合的に支える事業体として1996年に設立され、2002年に法人化された。2003年12月、地域の要望により、中学校体育館の建て替えに際し、学校と地域との共同利用を前提としたクラブハウス（社会体育施設）を半田市が整備し、管理運営はソシオ成岩スポーツクラブが受託している。成岩中学校の敷地内にあり、学校地域共同利用施設という位置付けどおり、中学校の体育館としての機能と、地域スポーツクラブのクラブハウスとしての機能が一体となっており、学校の施設を地域のクラブが管理し、部活動のサポートも行うという先進的な取組を行っている。

ソシオ成岩スポーツクラブでは、幼児から中学生までの14競技を実施しており、アスリートによる質の高いプログラムを行う等多様なニーズに応えている。地域住民の13%にあたる約2,900名の協賛会員が財政基盤となっており、53名のボランティアアシスタントが毎週末子どもたちの活動のサポートに当たっている。

今後は、総合型地域スポーツクラブが事業実施主体となり、地域・学校・行政と連携しつつ、多世代にわたる住民スポーツサービスの充実、発展を図り、学校施設を拠点とするコミュニティスクール・クラブを目指していきたいとのことであった。

【主な質問事項】

- ・総合型地域スポーツクラブの会費が支払えない世帯に対する対応について
- ・学校地域共同利用施設による学校及び地域のメリット、相乗効果について
- ・学校教育共同利用施設建設費の予算の枠組について など



施設視察

3 公益財団法人静岡県舞台芸術センター〔於：静岡芸術劇場〕（静岡県静岡市）

【調査事項】

静岡県舞台芸術センターにおける舞台芸術の振興の取組について

【調査目的】

舞台芸術作品の創造・上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的とする公益財団法人静岡県舞台芸術センターの取組について調査を行い、本府における文化・芸術の振興に関する施策の参考とする。



調査事項を聴取

【説明者】

成島 洋子 静岡県舞台芸術センター 芸術局長

【調査内容】

公益財団法人静岡県舞台芸術センター（SPAC）は、専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団であり、舞台芸術作品の創造・上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的としている。

SPACの特徴ある活動として、未成年の児童・生徒に対する人材育成事業がある。中高生の学校教育の課程の中に組み込まれ、無料でSPACの公演に招待する「中高生舞台芸術鑑賞事業」をはじめ、夏季の短期間に集中的に演劇の基本学習を行う「SPACシアタースクール」、高校演劇部に対する「1日演劇学校」など、多彩に児童・生徒向けに事業を展開している。

また、静岡県は、演劇をテーマとして多くの人々が集い、劇場や公園、周辺の文化・観光施設まで含めて地域全体が演劇をキーワードに活性化する状態を示す「演劇の都」構想を令和3年度に策定している。構想の実現により、音楽の都ウィーンのように、演劇といえばSPACのある静岡が都であると定着し、多くの人々が本県を訪れる契機となってほし

いとのことだった。

【主な質問事項】

- ・舞台芸術センターの俳優やスタッフの収入状況について
- ・貸館を実施しない理由について
- ・財団の基本財産の推移について
- ・財団の事業実施状況及び収支状況について など



施設視察

4 静岡市議会（静岡県静岡市）

【調査事項】

プロスポーツを生かしたまちづくりについて

【調査目的】

プロスポーツチーム等と連携し、スポーツの力で誰もが健康で心が満たされるまちの実現を目指す「静岡市プロスポーツチーム等連携プロジェクト」に係る取組について調査を行い、本府におけるスポーツ振興に関する施策の参考とする。



調査事項を聴取

【説明者】

長澤 秀紀 静岡市観光交流局 スポーツ交流課 参与兼課長
栗田 智香 静岡市観光交流局 スポーツ交流課 副主幹

【調査内容】

静岡市では、これまでもプロスポーツチームと連携したまちづくり、ひとづくりを推進してきたが、この取組に企業や地元団体が参画し、ともに活動することを目指して、企業版ふるさと納税を活用した「静岡市プロスポーツ等連携プロジェクト」を令和4年9月に開始した。プロジェクトの流れは、企業等が対象チームを選択して市に寄附を行い、市はチームだけでなく寄附企業や地域の方々と協議し事業化を図っていくものであり、企業や地域の方々が地域の課題について共通認識を持ち、「自分ごと」としてともに取り組んでいくことにより、多様化する市民ニーズ等による困難な課題解決につながるとしている。なお、企業からの寄附金募集については、市だけでなく、各プロスポーツチームが企業に直接呼びかけていただくことにより、チームと寄附企業の意向をより反映した事業の実施ができるとのことだった。

【主な質問事項】

- ・市内企業のプロスポーツチームへの支援状況について
- ・企業版ふるさと納税を使うことに対する市内企業の反応について
- ・キャリア教育にプロスポーツチームが関わることのメリットについて
- ・企業版ふるさと納税を活用して実現したい事業について など

5 エコパスタジアム（静岡県袋井市）

【調査事項】

エコパスタジアムにおける官民連携のスポーツを活用したまちづくり・地域活性化の取組について

【調査目的】

エコパスタジアムにおける官民連携のスポーツを活用したまちづくり・地域活性化の取組について調査を行い、本府におけるスポーツを活用した地域振興の取組の参考とする。



調査事項を聴取

【説明者】

大場 博史 静岡県サッカー協会グループエコパハウス 営業企画部 主任

【調査内容】

エコパスタジアムは、静岡県袋井市の小笠山総合運動公園内にあり、5万人余りの収容力がある静岡県内最大の多目的競技場である。施設は静岡県が所有し、静岡県サッカー協会グループが指定管理者として運営管理を行っている。ラグビーワールドカップ2019™日本大会（4試合）、2002 F I F Aワールドカップ™日韓大会（3試合）、2003 NEW！！わかふじ国体、2006ねんりんピック静岡開会式、Jリーグのジュビロ磐田のホームゲームの一部等を開催している。

世界3大スポーツイベントのうちF I F Aワールドカップとラグビーワールドカップの2つを開催できたことが大きな誇りとのことであり、オリンピックについても、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の際、アイルランドオリンピックチームの合宿地として使用されている。

官民連携の取組として、ラグビーワールドカップ開催の成果を将来に継承し、地域共生できる「スポーツ文化」を根付かせたいとの思いから、試合会場であるエコパスタジアムを拠点として、日本初の「女性と子ども」に特化した総合型地域スポーツクラブ「アザレア・スポーツクラブ」が設立された。女子7人制ラグビーチーム「アザレア・セブン」を中心としたスポーツ普及や、セミナーを開催し、スポーツを通じて青少年の健全な育成を目指し活動していきたいとのことであった。

【主な質問事項】

- ・年間の指定管理料について
- ・エコパウエディングの実績及び費用について など



施設視察

月日	発着地	発時刻	着時刻	摘要
11 月 15 日 (火)	京都駅2階 新幹線中央口 8:50 集合、9:08 出発			
	京都駅	9:08		【ひかり500号】
	名古屋駅	10:00	9:42	【借上バス】
	半田市議会 (愛知県半田市)	11:59	11:03	◆部活動の地域移行に関する取組について
	(昼食)	(12:10～13:00)		(愛知県半田市内)
	NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブ (愛知県半田市)	14:08	13:13	◆地域総合型スポーツクラブの運営及び部活動の地域移行に係る現状について ・施設視察 ・概要説明
宿舎		16:50	(静岡県静岡市内)	
11 月 16 日 (水)	宿舎	9:10		【借上バス】
	公益財団法人静岡県舞台芸術センター 〔於:静岡芸術劇場〕 (静岡県静岡市)	10:52	9:25	◆静岡県舞台芸術センターにおける舞台芸術の振興の取組について ・概要説明 ・施設視察
	静岡市議会 (静岡県静岡市)	11:50	11:11	◆プロスポーツを生かしたまちづくりについて
	(昼食)	(12:10～12:55)		(静岡県静岡市内)
	エコパスタジアム (静岡県袋井市)	15:12	14:13	◆エコパスタジアムにおける官民連携のスポーツを活用したまちづくり・地域活性化の取組について ・概要説明 ・施設視察
	浜松駅	16:31	16:10	【ひかり517号】
京都駅		17:37	【解散】	

② 管内調査

(令和5年1月17日(火))

1 恭仁宮跡〔於：瓶原公民館〕(木津川市)

【調査事項】

史跡・歴史遺産の活用整備について

【調査目的】

恭仁宮跡の特別史跡昇格に向けた価値付け作業、府南部地域振興の拠点とするための検討等の取組状況等について調査を行う。

【説明者】

森 正 文化財保護課長

【調査内容】

恭仁京は、聖武天皇が740年に平城京から遷都した奈良時代の都であり、恭仁京のうち、最も重要な「宮」の範囲が国の史跡として指定されている。恭仁京は、都であった期間が3年余りと短く、平安京や長岡京の前に府内に都があったことは、府民にもあまり知られていないのが現状であるが、「国分寺建立の詔」や「墾田永年私財法」、「大仏造立の詔」など、その後の日本の方向性を大きく変える政策が次々と打ち出されるなど、歴史上重要な役割を担った都である。また、長岡京や平安京は市街化が進み、往事の姿を偲ぶことはできないが、恭仁京周辺は豊かな自然が残り、当時の姿を今に伝えている。

府教育委員会では、昭和48年度から継続的に恭仁宮跡の発掘調査を実施した結果、多くの遺構が見つかり、その結果、昭和32年に「山城国分寺跡」として指定された国史跡の名称は、平成19年「恭仁宮跡（山城国分寺跡）」に変更された。その後もさらに調査精度が上がっているため、府教育委員会では令和7年度を目標として、史跡の国宝に相当する特別史跡への昇格を目指す計画としている。加えて、今年は恭仁宮発掘50周年及び文化庁移転の年でもあるため、様々に普及啓発活動を計画しているとのことだった。

【主な質問事項】

- ・ 恭仁宮跡の今後の調査及び史跡活用の展開について
- ・ 恭仁宮跡が特別史跡に値すると考えられるポイントについて
- ・ 恭仁京と木津川の関係性について
- ・ 特別史跡指定に伴う規制の強化について など



調査事項を聴取



恭仁宮跡を視察

2 京都府立宇治支援学校（宇治市）

【調査事項】

特別支援学校における教育活動について

【調査目的】

特別支援学校における教育活動について調査を行う。

【説明者】

細矢 義伸 宇治支援学校長

【調査内容】

宇治支援学校は、平成23年4月に開校した特別支援学校である。宇治市・城陽市を校区とし、知的障害・肢体不自由のある小学部から高等部までの児童生徒315名（令和4年5月1日現在）が在籍している。

「よりよく生きる力をはぐくむ」を教育目標としており、一人一人の自立と社会参加を実現するために、児童生徒が地域社会と協働した授業の中で、生活する力、働く力といった生きる力を育む教育を推進している。すべての学習に「地域学習」を取り入れており、駅や公園での清掃活動、作った野菜の販売、近隣店舗のビルメンテナンスなどを行っている。

また、同校内には、京都府スーパーサポートセンター（SSC）が設置されており、京都府の特別支援教育の拠点として、発達障害等のある子ども一人一人の自立と社会参加を目指し、就学前から卒業後に至る切れ目ない特別支援教育の体制整備を総合的に推進している。

開校当初230名程度であった同校の児童生徒数は年々増加しており、その対応が課題となっている。文部科学省の資料によると全国的にも支援学校在籍生徒が増加しており、今後も様々な支援が必要な児童生徒が増える可能性が考えられ、特別支援教育の推進のあり方や特別支援学校の運営について今後どのように対応していくかが課題であるとのことであった。

【主な質問事項】

- ・ 今後の児童生徒数増加の見込み及び対応方策について
- ・ 京都府における今後の特別支援教育推進に係る方向性について
- ・ 不登校児童生徒に対する取組や課題及びICTの活用について など



調査事項を聴取



宇治支援学校を視察

文化・教育常任委員会 管内調査日程

令和5年

月日	発着地	発時刻	着時刻	摘要
1 月 17 日 (火)	議会棟 8:55 集合、9:00 出発			
	議会棟	8:59		【借上バス】
	恭仁宮跡 〔於：瓶原公民館〕 (木津川市)		10:03	◆史跡・歴史遺産の活用整備について ・概要説明 ・現地視察
		11:35		
	(昼食)	11:50～12:49		(木津川市)
京都府立宇治支援学校 (宇治市)		13:31	◆特別支援学校における教育活動について ・概要説明 ・授業見学等	
	14:28			
議会棟		15:20	【解散】	

テレビ取材

7 委員会活動のまとめ

2月定例会の委員会（令和5年3月7日開催）において、新型コロナウイルス感染症対策として、1年間の「委員会活動のまとめ」の議事が設けられなかったため、希望する委員から書面により提出がされた。

以下、その内容を委員名簿順に記載した。

○諸岡美津委員長

コロナ禍が続き調査等において中止や制限が続く中ではありましたが、NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブの総合型地域スポーツクラブの運営及び部活動の地域移行に係る現状について、公益財団法人静岡県舞台芸術センターにおける舞台芸術の振興の取組について、恭仁宮跡の現地視察、また重要課題調査として立命館大学の野田正人参考人より不登校児童生徒への支援について等、府が直面する課題への示唆に富む視察となり、様々な角度から研さんを積ませていただきました。

さらに、古典の日フォーラムにおける琉球王朝の華組踊の調査は、圧倒的な文化の力のすごさを実感するものでありました。

5月8日からは新型コロナウイルスの感染症法上の分類は、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下がることとなり、3月13日からは、マスクの対応についても個人の判断に委ねられることになりました。

コロナ禍における子どもたちへの影響は大きく、とりわけマスクの着用については同調圧力、いじめにつながることも多く、新たなルールには、これまで以上に迅速な対応、課題解決が求められます。これまでの経験を生かし、今後の対策を講じる際には先生からの御意見、児童・生徒・保護者から見える課題に関しても、丁寧な対応を求めるものであります。

また文化庁の本格始動を迎え、千年を超え受け継がれてきた京都の文化と歴史を背景に、国と地方が連携し新たな文化政策の潮流を生み出し、成果を全国に普及させ地方創生につなげていくこと等、本府には大きな期待が寄せられています。

3年間に及ぶコロナ禍で、閉塞感で希望が見いだせない状況も見られましたが、過日の府立高校の卒業式での生徒さんたちの言動は目をみはるものがありました。

退場の際に、全員で先生に感謝のポーズをとられ、一緒にコロナ禍を乗り越えた同級生とハイタッチして笑顔で巣立っていかれる姿に、大きな希望と勇気をいただきました。

ここまでに育てていただいた保護者、先生、地域の方々に心より感謝申し上げます。

まとめというより、雑感や要望を書きつらねてしまいましたが、結びに、宮下、渡辺副委員長をはじめ、委員の皆様、そして理事者及び事務局の皆様、御意見を寄せていただきました府民の皆様に、1年間大変お世話になり心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

○宮下友紀子副委員長

諸岡委員長、渡辺副委員長には、委員会運営に御尽力を賜りましたこと心から感謝申し上げます。また、委員の皆様、理事者、事務局の皆様、お世話になりありがとうございました。

委員会活動は、令和3年度に引き続き、コロナ感染症の影響により、文化スポーツ部・教育委員会所管事項に関わる課題の調査、市町村や現場の声を聞く管内外との意見交換等にも制限がありましたが、令和4年11月からやっと管外調査が再開されました。文化・教育常任委員会では、愛知県、静岡県にて管外調査を行いました。

愛知県半田市議会では、全国に先駆けて取り組まれている小・中学校の部活動地域移行の経過と課題についてのお話を伺いました。地域指導者の確保、スポーツクラブの活動における会費の問題など様々の課題が見えてきました。京都府においても、教職員の負担を減らすためには、部活動の地域移行は必須であると考えます。半田市の例を参考に部活動の在り方に関する施策に取り組んでいただきたいと思います。静岡県では、静岡県舞台芸術センターを視察して、舞台芸術の振興の取組について、またエコパスタジアムでは官民連携のスポーツを活用したまちづくり・地域活性化の取組についてお聞きし、視察しました。地域の人々がスポーツでつながる活気あふれるまちづくりの実現に向けて取り組んでいきたいと思いました。

1月には、管内の木津川市、恭仁宮跡にて、史跡・歴史遺産の活用整備について調査を行いました。恭仁宮は聖武天皇が740年に平城京から遷都した奈良時代の都であり「宮」の範囲が国の史跡として指定されている歴史上重要な役割を担った都であるにもかかわらず、府民にもあまり知られていないという現状です。京都府教育委員会による約50年もの地道な調査の結果、都の実像が明らかになりつつあり、令和7年の特別史跡認定を目標とし様々な啓発活動が計画されています。今後、府南部地域の振興の拠点になることを期待するところです。

委員会での参考人のお話、意見交換での、活発な御質問、御意見に、私自身の視野を広げることができ、大変勉強になりました。本当に意義のある委員会活動となりました。

この委員会での学びを生かし、府民の声に寄り添い課題に沿った提言ができるよう努めてまいります。

文化・教育常任委員会は文化スポーツ部・教育委員会所管事項の条例案や予算等の審査、文化芸術、スポーツ及び生涯学習の振興、私立学校の振興及び京都府立大学の整備、教育の振興、文化財などについて調査等、重要な役割を担っています。

理事者におかれましては、委員会での質疑や議論、提言を文化・スポーツ振興の一層の充実のために生かしていただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、諸岡委員長、渡辺副委員長には、委員会運営に対して、格別の御指導を賜りましたことに心より厚くお礼申し上げます。皆様、1年間ありがとうございました。

○渡辺邦子副委員長

まずは、諸岡美津委員長には、充実した委員会運営に多大な御尽力を賜りましたこと心から敬意を表し感謝申し上げます。

また、宮下友紀子第一副委員長はじめ委員の皆様方におかれましても、終始熱心な御審議・御議論をいただき、多くの御示唆を賜りましたことに心から敬意を表します。

日頃から京都府政の発展のため御精励いただいております理事者各位におかれましても、各委員からの質疑や要望に対し、御丁寧・真摯な御対応を賜り誠にありがとうございました。

この3年間、長引くコロナ禍で生活が一変し、多くの制約がある中、特に子どもたちの成長段階における体験や交流の不足による影響が懸念されていましたが、「京都キッズ・スポーツフェスタ」や「全国高校生伝統文化フェスティバル」での生き生きとした児童・生徒の皆さんの様子や、3月1日には久しぶりに参列させていただいた京都府立高校の卒業式において明るく清々しい卒業生の姿を拝見することができ、学校現場をはじめ関係者の皆様の御奮闘・御尽力に心からの敬意と感謝の意を表したいと存じます。

また、昨年4月に策定された「府立高校の在り方ビジョン」に基づき設置された「魅力ある府立高校づくり懇話会」において、社会の変化等に対応した高校教育を推進する望ましい府立高校の在り方について多様なメンバーの皆様が熱心に御審議いただいたことを、今後、公立・私立ともに京都府の教育に生かしていただきますよう、重ねてお願いをいたします。

また、年々ニーズが高まっている特別支援学校につきましても、京都府立井手やまぶき支援学校の竣工式に参列させていただけたことは大きな喜びでありました。約20年前、府立高校PTAの仲間である南山城支援学校の皆様と様々な課題を共有させていただいた者の一人として、細部にわたって整備された立派な校舎や中学生たちによる校歌のビデオ等を教育委員の皆様とも御一緒に拝見することができてとても嬉しく思いました。

3年ぶりに開催された「ふれあい・心のステーション」や、管内調査では京都府立宇治支援学校にもお伺いし、一人一人を大切にされる京都府の特別支援学校のこれまでのお取組がより一層充実してきていることを実感しました。

地域の皆様にも親しまれてきた宇治支援学校のカフェが早く再開され、生徒の皆さんが地域の皆様に見守っていただきながら学びを深めていかれる時を心待ちにしております。

11月には、カナダ出身の茶人、裏千家教授のランディー・チャネル宗榮氏を参考人として招致し、「生活文化に係る現状の課題及びその保存、振興について」お話を伺いました。お作法など堅苦しく考えず、気楽にお茶に親んでもらえるようにと御自身で簡単なお点前を披露された後、委員の中からもお二人、お抹茶をたていただきながら、ウイットに富んだお話が弾みました。文化庁京都移転もいよいよ始まり、文化財や伝統文化等はもちろん、「生活文化」も大切にしていこうとの機運が高まっている中、日常生活の中でぜひ「宇治茶やお抹茶で一服」のひとつときが広がっていくことを改めて願いました。

11月には久しぶりに実施された管外調査で静岡県等を訪問し、特に静岡県舞台芸術センターで、専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優やスタッフが常時活動され、児童生徒も生の芸術を身近に鑑賞できるお取組に感服しました。

1月17日には管内調査で、長年「幻の都」とされていた「恭仁宮跡」を訪れ、昭和48年度から約50年にわたって継続的に地道な調査を続けてこられた結果、都の実像が明らかになりつつあることを知りました。2月には「恭仁宮フォーラム」や「『幻の都』へようこ

そ！恭仁宮を体験しよう」等々の開催など、関係者の皆様の長年の御労苦に心から敬意を表し、今後、さらなる展開や、敷地内にある「恭仁小学校」の児童をはじめ、自分たちが暮らす地域のすばらしい歴史を誇りとして育ててくれることを期待し、注目していきたいと思います。

P T A活動をはじめ社会教育の在り方、学校での部活動の地域移行、障害のある方々を含むスポーツや文化芸術分野の振興、北山エリア整備構想等々、まだまだ重要な課題が山積されていますが、3月27日には文化庁の京都移転、4月には「こどもまんなか」の社会づくりを目指す「こども家庭庁」の創設等、今後、文化・教育常任委員会の果たす役目がより一層期待されることと思います。私も引き続き、府民福祉の向上に全力で取り組んでいけるよう努力、精進してまいります。

最後になりましたが、コロナ禍の中、委員会運営に格段の御尽力を賜りました議会事務局の職員の方々に心から感謝を申し上げ、まとめとさせていただきます。

○藤山裕紀子委員

諸岡委員長、宮下副委員長、渡辺副委員長並びに委員の皆様、また事務局の皆様にはお世話になりありがとうございました。文化スポーツ部については文化庁の京都移転を令和4年度末に控え、教育委員会については府立高校の今後についての検討が行われている中の委員会ということで大変有意義な1年でした。

文化庁移転について、地方創生の観点からはとても意義のあるものだと理解できますが、実際に府民がそのメリットや効果を感じることができるよう、その点の発信にも努めていきたいと思います。一方で、京都は世界に誇る文化都市ではありますが、それにあぐらをかいてしまっているところがあるのではないかと考えています。文化とはそのものだけでなく、そのものに内在する心に触れることも大切だと考えます。府内の様々な地域に長らく受け継がれてきた伝統文化や生活文化の継承とともに、日常の生活習慣の中にある文化にもそれぞれの意味があることや、そこにある日本人の心のありようなどを学ぶ機会づくりにも力を入れて取り組んでいきたいと考えます。若者や子供がもっとそういったところに触れて感じる機会が増えることで、京都府全体の文化力の向上につながるものと考えます。

教育、特に府立高校について、当時と比べても子どもの減少や私学振興により、取り巻く状況は大きく変わってきました。昨年度末に策定された「府立高校の在り方ビジョン」によって今後の方針が明らかにされていますが、公教育の意義と意味について、より明確に発信することで府立高校の価値を高め、多様な学びの中でも選ばれる学校になっていただきたいと思います。教育は国家百年の計とありますが、教育に携わる全ての方が百年後の日本、百年後の京都府を思い描きながら教育活動を行っていただきたいと思います。

理事者の皆様におかれましても、お体に御留意いただきながら、コロナ後、大きく変化している社会の状況を見据え、より価値ある京都府を創造できるよう、今後の取組を進めていただきますことをお願い申し上げます。

○森口亨委員

まずもって、諸岡委員長、宮下、渡辺両副委員長、そして委員の皆様、また、理事者並

びに事務局の皆様方には、この1年間本当にお世話になりました。特に、正副委員長におかれましては、コロナ禍以前の活動状況に戻りつつあるとはいえ、まだまだ感染防止などに細かな配慮が必要な状況下、議案審査はもちろんのこと、管内調査や所管事項の調査など委員会活動の全般において、計画や事前準備等に御尽力いただきましたこと、心から敬意を表し感謝申し上げます。

文化・教育常任委員会におけるこの1年を振り返りますと、まず、コロナの影響で久しく実施できていなかった管外調査を、今年度は感染症対策を徹底しながら実施することができました。訪れた愛知県半田市では、部活動の地域移行や地域総合型スポーツクラブについて、静岡市では舞台芸術の振興やプロスポーツを生かしたまちづくりについて、そして、静岡県袋井市では官民連携のスポーツを活用したまちづくり・地域活性化の取組について調査させていただきました。全国に先駆けて小・中学校部活動の地域移行を進めてこられた半田市の取組は、解決すべき課題が非常に多岐にわたる状況のなかで、地域の子どもたちのスポーツ活動と環境整備のために御尽力されていました。また、この管外調査全体を通して、芸術やスポーツの分野で行政が果たすべき役割、また、整理すべき考え方について多くの気づきがあったと思います。特に、行政がまちづくりや地域振興を見据えて、積極的に芸術やスポーツに投資することの重要性を再認識させていただきました。

また、私が地域課題のひとつとして取り組んでまいりました丹後地域における大学入学共通テストの実施につきましましては、文化スポーツ部と教育委員会に係る内容ということで、本常任委員会の所管分野であったため、委員会で何度も取り上げさせていただきました。結果、京都府立大学が実施する令和5年度大学入学共通テストを京都府立峰山高等学校において実施していただくことができました。後日のアンケート調査等でも良い評価が多かったとのことで、大変嬉しく存じます。この間御尽力賜りました、知事並びに教育長をはじめ全ての関係者の皆様には、この場をお借りしまして、改めて、心から感謝したいと思います。

最後になりましたが、委員会活動に御協力賜りました全ての方々に心から御礼申し上げますとともに、理事者の皆様には心から敬意を表し感謝申し上げます。

結びに、文化首都・京都への文化庁移転を契機に、東京一極集中が是正され、文化の力による地域創生へとつながることを心から祈念いたしますとともに、本委員会で学ばせていただきましたことをしっかりと生かし、京都府政に微力ながら貢献できるよう引き続き精一杯努力することをお誓い申し上げ、委員会活動のまとめといたします。

1年間、大変お世話になり本当にありがとうございました。

○山内佳子委員

コロナ禍3年目となる1年間、委員長、副委員長をはじめ委員の皆さん、理事者の皆さん、また事務局の皆さんには大変お世話になり、感謝申し上げます。

1年間を通じて、子どもたちの発達を保障するための教育環境の整備や、教員を増やして少人数学級を実現すること、また向日ヶ丘支援学校の寄宿舎の存続や医療的ケアの児童生徒の学びの保障について、質問してまいりました。

向日ヶ丘支援学校の建て替えに伴う仮校舎についても、現地を視察させていただいて様々な改善要望を出させていただきました。予定では2023年から2027年まで、少なくとも

4年間を仮校舎で過ごさなければなりません。仮校舎といえども、現状より教育環境が悪化することがあってはなりません。

教育委員会にはさらなる御努力を求めておきます。

またタブレットの導入による負担増により、ある高等学校では修学旅行の行き先を近場にしたりなど、本来生徒が楽しみにしている修学旅行まで経済的な負担のために犠牲にしなければならない事態が起こっていることは深刻です。全国で半数以上の県で全額公費負担が実現しているのです。しっかりと財政措置を行い、タブレットは公費で導入すべきです。

北山エリア開発については多くの府民、近隣住民の開発の白紙撤回を求める声が広がり、署名も16万筆近く集まりました。

委員会での質問に理事者は「まだ決まったことではない」「一民間事業者の考え」と述べるばかりで、京都府として北山エリアの開発をどのようにしていきたいのか、全く明らかにしていません。一昨年に開催された説明会からすでに1年4か月が経過しています。最初の説明会では今後も説明会を開催するとしながら、民間事業者の案を基にしたワークショップや意見聴取会が開かれています。府民にも議会にも情報を明らかにして、早急に説明会を開催すべきです。

また府の文化施設のすばらしさについても再認識できた委員会でした。

府立文化芸術会館はその箱としての劇場の良さとともに、スタッフの専門性の高さが、演者の皆さんの高い評価につながっていることも学べた委員会でした。現施設の北山エリア区域への機能継承を念頭に置いた本府の報告書もありますが、演者の皆さんや観客の皆さん方は、現在の場所での存続を願っておられます。

バス停が目前にあって、周辺にはコインパーキングも多く存在する現在の場所は、決して不便な場所ではありません。

ぜひ府有施設の長寿命化という点でも、府立文化芸術会館は現在の場所で、修繕を行い存続していただきたいと思います。

要望が中心のまとめとなりましたが、よろしく願いいたします。

○森下由美委員

正副委員長をはじめ、各委員の皆さん、理事者の皆さんそして事務局の皆さんには、大変お世話になり、ありがとうございました。

今年度もコロナ禍における感染対策をしながらの委員会運営で、大変御努力いただきましたことに感謝いたします。特に8月の管外調査はコロナで中止になるなど、御苦労いただいたことに感謝いたします。

私はこの間「コロナ禍においても、誰もが安心して学べる、学校、教育環境づくり、文化スポーツの振興」を求めて議論してきました。さらに住民の利益を優先する立場で意見、提案をしてきました。

学校教育分野では、コロナ禍において、少人数学級、とりわけ全ての学校で30人以下学級の実現や、中学校給食の実施、給食費をはじめとする教育費保護者負担の軽減、高校生タブレット端末購入へ全額公費負担など府民の願いを中心に求めてきました。教育施設においては、トイレ洋式化改修をはじめ、各施設老朽化対策の遅れに対して早急に推進し

ていただくことを求めてきました。引き続き取組の強化を求めておきます。

さらにコロナ禍で、感染者が減ったとはいえまだまだ続く状況があり、各学校におけるコロナ感染予防対策の継続を、さらにコロナ禍の影響も相まって、不登校児童・生徒の増加や、いじめ対応など丁寧な取組が必要になっています。引き続きスクールサポーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置と、身分保障を積極的に取り組んでいただくことを強く求めておきます。

念願の特別支援学校「井手やまぶき支援学校」が立派に完成し、学習現場を見せていただいたことに感謝しています。続いて向日が丘支援学校がこれから仮校舎を得て、新設校に向けて建設が始まりますが、児童・生徒・保護者・教員の声をしっかり反映していただいて、未来に希望が持てる学舎の完成を期待したいと思います。

北山エリア整備計画については、多くの府民、隣接住民、関係者から計画中止を求める要望書が出されています。府立大学の体育館、府民の貴重な財産である植物園の在り方、にぎわいや交流施設の整備を理由に大規模な開発を進めることは白紙撤回し、アリーナ建設の撤回と老朽化した大学施設整備の推進を急ぐこと、「本物の植物の博物館」としての府立植物園整備に向けた職員や関係者、府民的議論を基本とし、旧府立資料館跡地活用については、利活用の在り方も含め府民のための施設として論議することを強く求めます。

○西山頌秀委員

1年間、正副委員長をはじめ委員の皆様、事務局、また理事者の皆様に大変お世話になりました。ありがとうございました。

コロナ禍に加え、物価高騰が府民の暮らしを襲った1年間でした。物価高騰対策としては当初、給食費の値上げを抑える府の支援策から始まりました。府内の市町村ではさらに給食費の値下げ、無料化を目指す動きも広がったもと、来年度予算で「子どもの教育のための総合交付金」にもつながりました。教育への公的投資をさらに強め、自己負担無償化を目指すことを求めるものです。

本来、憲法において義務教育の無償化が定められ、1951年国会において「学校給食費も無償化することが理想」と答弁されて以来、国における取組が進んでいないことが最大の問題です。また高校や大学等の義務教育以降の教育段階でも漸進的に無償化を目指すことは国の方針となっています。そのためにも、本府が国に対し、改善を求めるべきことは引き続き強く求めていただきたいと思います。

2月定例会の一般質問において、「包括的性教育の推進」を求めました。性教育先進県である秋田県出身の方にお聞きすると、「避妊が自らと、愛する相手と、さらに別の他者も含めて広く社会の健康を守ることに繋がると、若い時に認識できることがよかった」と話されていました。包括的性教育は、こうしたからだの健康のみならず、さらに認識を発展して人間関係を含めて豊かな関係を築く手段として注目されているものです。府教育委員会も本格的に研究していただくことを求めます。

文化行政にあたっては、北山エリア開発に府民の関心が寄せられた1年でした。そうした関心にいかに応えるかが行政として問われていると考えます。また府内全体のスポーツ施設の老朽化も進んでいます。府民から声が上がっている今こそ、行政が立ち止まって考えることが重要です。文化やスポーツ施設を府内全域でいかに均衡ある発展を進めるか、

その一つとして北山エリアはどうすべきか、私はそのためにも民間に任せた今の基本計画を白紙に戻すことが重要と考えます。

最後に、私が4年間で一貫して求めてきた大学生支援についてです。本府は大学連携会議等を通じて学生の実態を把握し、必要な施策もしていただきました。時々には「不十分である」との指摘もしましたが、基本的には理事者・職員の皆様は実態把握のため学生との懇談も含めて、御尽力いただいたと考えています。そうした取組が今後も発展されることを望むものです。

○平井齊己委員

まずは、委員会での審議、調査に当たり諸岡委員長、宮下副委員長、渡辺副委員長、委員の皆さん、理事者の皆さんには大変お世話になりました。また、円滑な運営に御協力いただいた議会事務局の方々には感謝申し上げます。

今年度も感染拡大対策に注意を払いながらの運営となりましたが無事一年を終えることができました。

各定例会ごとの議案審議、所管事項質疑、調査研究など多くのことを学ばせていただくことになりました。

閉会中常任委員会審査では、8月に不登校児童生徒への支援について、立命館大学大学院人間科学研究科の野田正人特任教授から、コロナ禍において人々の生活様式・意識の変化で不登校問題についてはこれまでの取組に加えて、重点的に取り組む方策が求められていることを実感しました。

11月には衣食住に係る生活文化の課題・振興などについて、裏千家教授のランディー・チャネル宗榮さんから、御自身の茶道との出会い、来日されてからの経験などを交えて、茶道・華道・食文化などの生活文化が根づいている京都の良さがライフスタイルの変化に対応し切れているのかなどを学ぶことができました。

管外調査では、愛知県半田市の部活の地域移行の取組として、中学校の体育施設の建て替えに合わせて、地域スポーツクラブとの連携について調査しました。教職員の働き方改革と業務過多、経験したことのない競技の部活顧問など課題解決の一つとして、地域スポーツクラブとの連携、住民の健康増進にもつながる取組でした。

静岡県舞台芸術センターにおける舞台芸術振興事業として、専用の劇場、稽古場を有する施設において、俳優・芸術スタッフの活動を公的機関が実施されていました。また、県内の児童生徒が舞台芸術鑑賞事業を通して、文化に触れ合える機会の確保にも取り組まれていました。

静岡市のプロスポーツを生かしたまちづくりとして、「静岡市プロスポーツチーム等連携プロジェクト」事業では、プロチームと地元団体が連携してふるさと納税を活用したスポーツ振興を調査しました。

静岡県袋井市にあるエコパスタジアムでは、サッカーやラグビーの国際大会、国内試合などの誘致と各種に対応したスポーツ施設、自然環境施設などで官民連携した事業を調査しました。

管内調査としては、木津川市にある恭仁京跡施設において、史跡・歴史遺産の活用整備について調査しました。恭仁京は平城京から遷都しましたが、僅か三年余りの都となり、

詳しい文献も乏しく「幻の都」とも言われています。京都府教育委員会では、昭和48年から発掘調査を続けており、多くの遺構の発掘、恭仁京の全容について調査しています。

府立宇治支援学校での教育活動についても調査しました。宇治支援学校では、宇治市・城陽市を校区として知的障害・肢体不自由のある児童生徒が通学しています。また、校内には京都府スーパーサポートセンターが設置されており、京都府の特別支援教育の拠点にもなっています。さらに地域との連携として、校内カフェの開放、窯業品の販売も取り組まれていました。

コロナ禍においても様々な工夫をしながら調査研究にも取り組むことができました。この経験を生かし、京都府政の推進に取り組んでまいります。